

万田坑の遺産 恵楓園に学べ

高谷和生59歳公務員
(玉名市)

先日、「菊池恵楓園で学ぶ旅」(県主催)のボランティアガイドを務め、熊日の「射程」(6月16日付)に載った地域の負の遺産を観光対象にする「熊本のタークツールズム」の意味を考えた。学ぶ旅は今回で11回目。2003年、南小国町で起きたホテル宿泊拒否事件をきっかけに始まった学ぶ旅の機会である。

一方、タークツールズムは災害被災跡地や戦争跡地など、人類の悲しみを継承し、亡くなった方をともに悼む旅のことである。世界遺産登録に向けた万田坑(荒尾市)を含む旧三井三池炭鉱はいかがであろうか。中国・朝鮮人強制連行犠牲者を悼む合同慰霊祭が開かれ、三池炭じん大災害の教訓をまとめた中間報告冊子も刊行されている。大牟田市立図書館では、炭じん事故や裁判に関する歴史資料を公開し、石炭を原材料とする陸軍火薬製造工場の荒尾二造から地域づくりを考える市民活動も活発である。しかしこれら諸団体のネットワークは脆弱で、社会に広がっていない。旧三井三池炭鉱の遺産は、菊池恵楓園や水俣と

同様に、人間の心に刻まれた「記憶の遺産」である。恵楓園での学びの旅と同様に、過去のメッセージから想起し、意味性を発見し、世界遺産登録となるように、多角的に歴史を継承すべきである。ヤマ(炭鉱)がなくなっても、この記憶の遺産を荒尾の人々の心だけに埋没させてはならない。

「読者ひろば」への一般投稿(若者コーナー)は4500程度、主張提言は6000程度。◇欄外に郵便番号(住所)「アパート・マンション名」氏名、年齢、職業、無職の方は元職でも可、電話番号を明記する◇趣旨を変えず文章を直すことあります◇原稿は返却しません。二重投稿採

投稿される方へ

否の理由等の問い合わせはお断りします。匿名は不採用。掲載分には薄謝を送ります。あて先は①郵送〒860-0185 06、熊本市中央区世安町172、熊日「読者ひろば」係②ファクス 096(363)1268③Eメール hiroba@kumanichi.co.jp